

整備事業者のユーザーに対するリユース・リビルト部品に関する情報提供の現況のまとめ

2002年5月に国土交通省が公表した『自動車のリサイクル部品の品質確保等に関する調査検討報告書』（「別紙1」参照）では、リユース部品、リビルト部品に対する信頼性を高めるため、自動車ユーザーに対する説明やアフターサービスを充実すべく、自動車整備事業者等と供給事業者が果たすべき役割が明確化された。さらに、これら部品を利用する際の確認内容や、不具合発生時の対応などとともに、リユース部品、リビルト部品の利用促進のためのガイドライン（以下、「ガイドライン」という。）として取りまとめられ、ユーザーに対する自動車整備事業者等とリサイクル部品供給事業者の役割として次の内容が示されている。

自動車のリサイクル部品の品質確保等に関する調査検討報告書の概要（抜粋）

①自動車整備事業者等の役割

自動車整備事業者等が自動車ユーザーへの対応において果たす役割は以下のとおりである。

- ・ユーザーに対し、新品の部品だけでなく、リビルト部品やリユース部品等のリサイクル部品も紹介する。その際、それぞれの部品の特徴を説明する。
- ・必要なリサイクル部品がすぐに見つからない場合でも、しばらく待つと部品が入荷する可能性があることを自動車ユーザーに説明する。
- ・部品に不具合があった場合はリサイクル部品供給事業者と連携し、自動車ユーザーの満足度を高めるべく対応する。

②リサイクル部品供給事業者の役割

リサイクル部品供給事業者が自動車ユーザーへの対応において果たす役割は以下のとおりである。

- ・自動車整備事業者等にリサイクル部品の点検内容や保証について適切に伝える
- ・自動車整備事業者等の自動車ユーザーへの対応を支援する
- ・万一不具合があったら、自動車整備事業者等をサポートし、現実的で円満な解決を図る

このような観点から、情報発信の在り方等に関する検討会の事務局は、ユーザーと整備事業者間における情報提供の現況を確認するため、一般社団法人日本自動車整備振興会連合会の協力を得て、紹介を受けた整備事業者（7事業者）に次のヒアリングを行った。（「別紙2」参照）

- ①整備事業者がユーザーとの接点において、新品部品とリユース・リビルト部品の違い等についてどのような情報提供を行っているか
- ②リユース・リビルト部品の利用促進に向けた課題・対策などについて
- ③その他、リユース・リビルト部品に係るユーザー等とのやり取り

1. ヒアリングの結果

整備事業者へのヒアリングの結果を次のとおり整理した。(詳細は「資料7 参考」を参照)

以下、リユース・リビルト部品をリサイクル部品と言う。

(1)リサイクル部品を使用する自動車の修理形態

- 自己負担が発生する故障修理全般にリサイクル部品を使用している。
ユーザーによって重視するポイント*が異なるため、ユーザーニーズを聞きながら対応している。
*【コスト】【納期】【品質・耐久性】
- 機能部品の交換では、リビルト部品を積極的に使用しており、リビルト部品を使うことを前提とした見積りや説明を行っている。
- 外装部品の交換では、リユース部品料に塗装料や送料を上乗せすると新品部品と比べて価格差が小さくなることから、納期など他ニーズを確認しながら対応している。
- メーカー保証修理や損害保険を使った修理の場合は新品部品を使うことが多い。
ただ損害保険を使った修理の場合でも、保険会社からリサイクル部品を使って修理するように要請を受けることがある。また、保険等級制度の改定により保険を使わず修理費用を抑えることを希望するユーザーが増えており、全般的にリサイクル部品の利用は増えている。

表1 ユーザーに認知すべきリサイクル部品の用語およびその代表的部品

リサイクル部品	部品の原型を最大限に止めたまま、再利用される部品で、品質確認を介して商品化されたものの。リユース部品とリビルト部品からなる。
リユース部品	使用済自動車から利用できる部品を取り外し、分解等の手を加えず、目視、現車・テスターなどによる点検を行い、清掃・美化を施し、商品化された再利用の部品。
リビルト部品	使用済自動車から取り外した部品や修理の際に発生した交換部品等をベースに、摩耗、劣化した構成部品を新品と交換、再組み立てし、テスターを用いて品質確認を行い、商品化された再利用の部品。
その他(解体部品)	品質確認などを介さず、使用済自動車から取り外してそのまま再利用される部品。

出所:平成14年度経済産業省委託『自動車リサイクル部品認知度向上調査報告書』(経済産業省)

リユース部品	外装部品	バンパー、フェンダー、ランプ、ドア、ガラス、ボンネット、トランク、グリル、ヘッドライト、テールライト
	機能部品	エンジン、ドライブシャフト、足回り部品、トランスミッション(AT・MT)、噴射ポンプ、ターボチャージャー、デフアレシヤルギア、ラック&ピニオン、ショックアブソーバー、ラジエーター、マフラー、パワーステアリングポンプ、ディストリビューター、フューエルタンク
	電装部品	スターター、オルタネーター、エアコンプレッサー、コンデンサー、モーター、エアコン、エバポレーター
リビルト部品	外装部品	バンパー、ランプ、ドアミラー、フェンダー
	機能部品	エンジン、ドライブシャフト、トランスミッション、トルクコンバーター、キャブレター、ターボチャージャー、パワステ関連、ラック&ピニオン、クラッチカバー、ラジエーター、ウォーターポンプ、クラッチディスク、ブレーキ
	電装部品	スターター、オルタネーター、エアコンプレッサー、コンピューター、ディストリビューター

出所:平成25年度中小企業支援調査『自動車リサイクルに係る解体業者に対する経営実態等調査事業報告書』(経済産業省)

(2) ユーザーへの説明内容と情報提供ツール

- 殆どのユーザーがリサイクル部品の存在を知っている。ユーザーが重視するポイントは各々異なるため、使用にあたってのメリット・デメリットを説明している。
- ユーザーへの説明内容は、主に新品部品とリサイクル部品の【価格差】【納期】【部品の特性】【部品の状態】【故障リスク】であった。
- ユーザーへの情報提供ツールは、【ポスター】【リビルト部品メーカーや部品商等が提供するカタログ】【部品の状態を示す写真】【部品商が提供するサンプルパーツ】であった。
- ユーザーに示す見積書・納品書にリサイクル部品を使用することを明記し、説明している。また、外装部品の交換を希望するユーザーに対しては、新品部品とリユース部品の両方の価格を示し、ユーザーに選択してもらう事業者もいた(7事業者中、3事業者)。

(3) リサイクル部品の仕入れ方法

リサイクル部品の仕入れ方法は、次のとおり整備事業者によって様々であった。

- リサイクル部品の検索ネットワークは外装部品の傷や凹みなどが写真で詳細に示され、機能部品も走行距離が示されるなど分かり易いものとなっている。
- 部品を探す手間を考えると、部品商に依頼する方が効率的であり、納期も早い。
- 部品商を通さず、リビルト部品メーカーや解体事業者から直接購入する方が納期が早く、コストも安くなる。

表2 リサイクル部品の仕入れ方法(ヒアリング結果)

仕入れ方法	事業者名							計
	A	B	C	D	E	F	G	
リサイクル部品の検索ネットワークを通じて購入				○			○	2事業者
リビルト部品メーカーや解体事業者から直接購入		○	○		○	○		4事業者
部品商から購入	○	○		○	○		○	5事業者

* 複数のリサイクル部品仕入れ方法をもっているため、その合計値は事業者数の合計とは合わない

(4) リサイクル部品の在庫量の状況

全般的に外装部品は少なく、機能部品は有るという結果であったが、主なコメントは次のとおり。

- リビルト部品の在庫量には困っていないが、もし在庫が無い場合は、そのものを自社で分解・修理する。
- リビルト部品の在庫量に不足はない。外装部品の在庫量は比較的に少ない。
- 外装部品は、自動車をぶつける箇所は皆同じであるため在庫量は少ない。機能部品も同じ自動車であれば、同じ箇所が故障することが多くなり交換需要が高くなるため、在庫量は少ない。
- 車種多様化により、人気車と不人気車で在庫量に差がある。輸入車の在庫量は少ない。新しいモデルの外装部品やトラックなどの架装部品の在庫は少ない。

(5)リサイクル部品の利用促進に向けた課題等

- ①タイムリーに在庫状況や価格情報を提供してほしい。
- ②リサイクル部品の品質基準やチェック方法の統一化をしてほしい。
- ③リサイクル部品の在庫量の拡充と部品の汎用化を促進してほしい。
- ④リサイクル部品に故障等があった場合の部品取替え工賃等を保証対象にしてほしい。
- ⑤リビルト部品は発注してから生産されることがあり、この納期短縮を図ってほしい。
- ⑥リサイクル部品がリコール対象の際、ユーザーにその事が分かるようにした方がよい。

2. 参考情報

整備事業者へのヒアリング結果を下に純正部品などの新品部品を始めリサイクル部品等の仕入れフローを下図のとおり整理した。

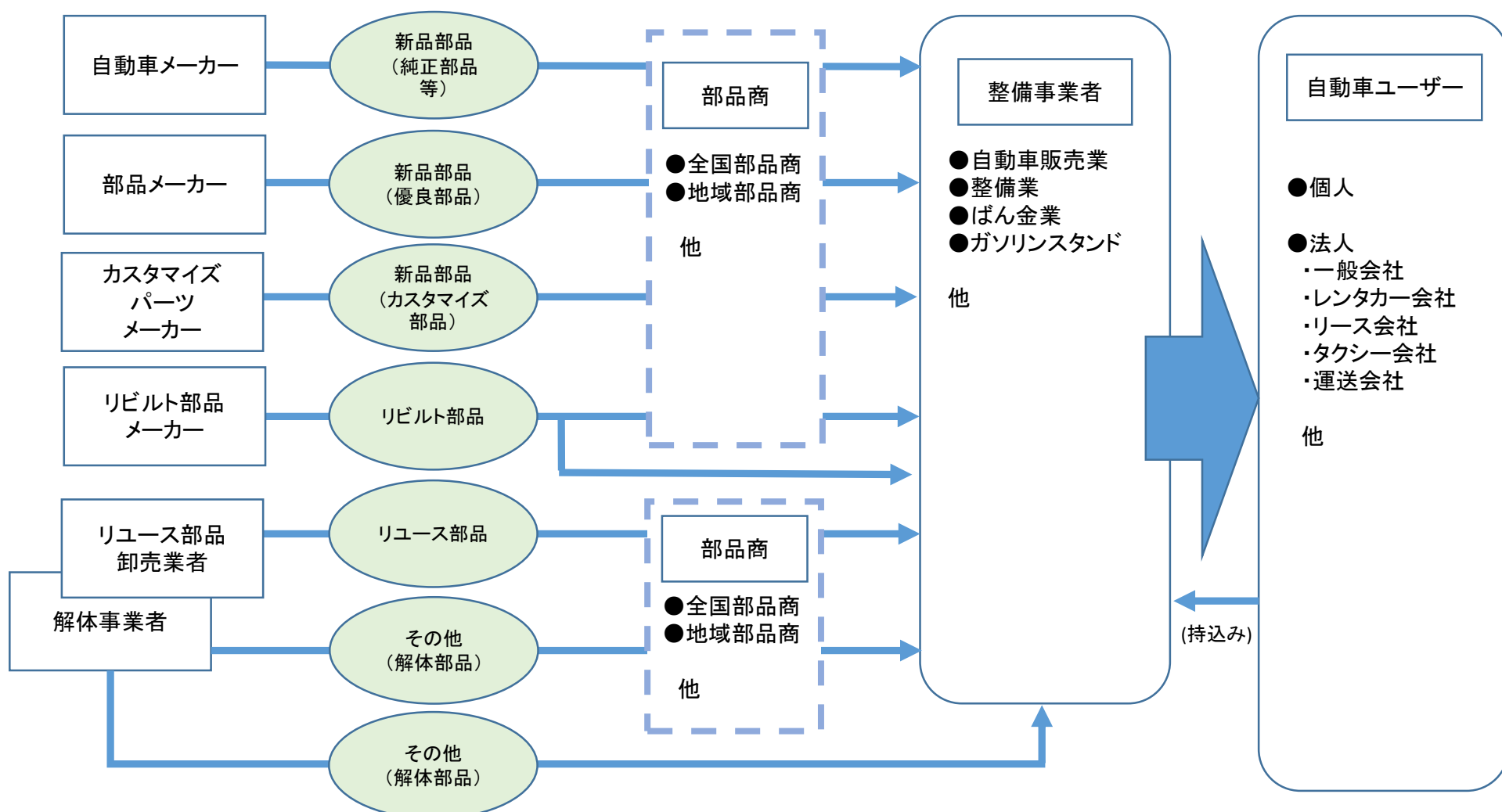


図 リサイクル部品の仕入れフロー

表3 補修部品の呼称

出所：株式会社ジェイシーレゾナンスが発行する「リビルトパーツ年間2016」

呼称	適応 or 特徴
新品部品	自動車メーカー及び部品メーカーにより生産される部品で、自動車メーカーから流通される「純正部品」と部品メーカーから流通される「優良部品」や「カスタマイズパーツ」から成る。
純正部品	自動車メーカーから流通される新車組み付けと同等の部品。
第二純正部品	自動車メーカーから流通されるコストメリットを生かした汎用部品。
優良部品	部品メーカーより流通される部品で、製品の汎用化と流通の流れの簡素化から、価格メリットを最大限に生かした部品。(主に、機能・消耗部品を指す場合が多い) 近年では、品質や性能よりもコストメリットを重視した海外製部品も増えつつある。
カスタマイズパーツ	ドレスアップや特定の性能の向上等、製品の付加価値や標準品装着車との差別化を目的とされ開発された部品。 近年では、修理交換用部品の代替として使用されるケースも増えつつある。

出所：平成14年度経済産業省委託『自動車リサイクル部品認知度向上調査報告書』(経済産業省)

リサイクル部品	部品の原型を最大限に止めたまま、再利用される部品で、品質確認を介して商品化されたもの。リユース部品とリビルト部品からなる。
リユース部品	使用済自動車から利用できる部品を取り外し、分解等の手を加えず、目視、現車・テスターなどによる点検を行い、清掃・美化を施し、商品化された再利用の部品。
リビルト部品	使用済自動車から取り外した部品や修理の際に発生した交換部品等をベースに、摩耗、劣化した構成部品を新品と交換、再組み立てし、テスターを用いて品質確認を行い、商品化された再利用の部品。
その他(解体部品)	品質確認などを介さず、使用済自動車から取り外してそのまま再利用される部品。

以上